

2026 年 7 月 30 日

会社名 株式会社グリッド

代表者名 代表取締役社長 曾我部 完

(証券コード：5582 東証グロース)

【新規領域開拓】グリッド、JAL エンジニアリング向け 運航整備配員計画最適化 AI 開発プロジェクトを受注

～2027 年本番稼働に向け本格着手。

JAL エンジニアリングの運航整備配員計画を自動化・高度化～

株式会社グリッド（本社：東京都港区、代表取締役社長：曾我部 完、以下「当社」）は、株式会社 JAL エンジニアリング（本社：東京都大田区、代表取締役社長：濱本 隆士、以下「JALEC」）より、運航整備における「配員計画最適化システム」の開発プロジェクトを受注いたしましたので、お知らせいたします。本プロジェクトの詳細につきましては添付のリリースをご参照ください。

本プロジェクトは、当社が提供する最適化 AI 技術を活用し、整備士の配員計画を自動化・高度化するものです。これにより、整備士のリソースを有効活用することで、持続可能な整備体制の構築を支援してまいります。両社は 2027 年夏頃の本番稼働を目指し、本年 4 月より本格的な開発に着手しております。

本受注のポイント（成長戦略上の意義）

- ◆ **成長分野「航空」への参入** 航空機整備の国内におけるリーディングカンパニーである JALEC との協業により、当社の最適化 AI を新たな産業領域へ展開します。実証実験を経た本格開発フェーズへの移行であり、最適化技術の実装力を示すものと捉えています。
- ◆ **大手顧客との中長期的な関係構築** 2027 年夏頃の本番稼働を見据えた開発であり、稼働後の保守・運用を含む継続的な取引を見込んでおります。
- ◆ **業界横展開のポテンシャル** 複雑な制約条件下での配員計画最適化という課題は、航空業界に広く共通します。本プロジェクトで培う知見を、JAL グループ、さらには業界全体へと展開する余地があると考えています。

本件の社会的意義

航空需要の拡大は日本経済の成長を牽引する一方、それを支える航空整備の現場では人手不足が予想されています。それに備えて、本プロジェクトは、当社の最適化 AI により整備士の配員計画を自動化・高度化し、限られた人材で高品質な整備体制を維持することを目指すものです。国内外の航空機整備ニーズを取り込む受け皿を強化し、航空業界の持続可能な成長と、日本の観光立国を足元から支えてまいります。

【添付】

2026 年 7 月 30 日

株式会社グリッド

グリッド、JAL エンジニアリングと 運航整備配員計画最適化プロジェクトを開始

株式会社グリッド（本社：東京都港区、代表取締役社長：曾我部 完、以下「グリッド」）は、JAL グループの整備業務を担う株式会社 JAL エンジニアリング（本社：東京都大田区、代表取締役社長：濱本 隆士、以下「JALEC」）と運航整備における配員計画を支えるシステムの本開発に合意し、2027 年夏頃の本番稼働に向けて、プロジェクトを開始しました。本プロジェクトは、最適化 AI 技術を活用し、計画業務効率化の実現を目指します。

【背景】

JALEC は JAL グループの航空機のみならず、長年の経験や幅広い知識、高い技術力を活用し、国内外の 50 社以上の航空会社から運航整備を受託しています。整備士は、航空会社ごと、機種ごとに異なる資格を保有しており、便の到着から次の出発までの限られた時間内に、機体の点検・整備作業を行い、一便一便の安全運航を確保します。計画業務担当者は日々、勤務シフト、駐機スポット、乱れた運航ダイヤなどの制約の中で、「誰が、どの会社の、どの機種の、どの作業に対応できるか」という資格の組み合わせを調整し、定時出発を支えています。さらに配員計画は、その日だけでなく、同時に年次の配員計画・資格取得計画、月次のシフト作成や日次の当日配員・直前変更対応といった複数の時間軸で並行して策定しています。こうした計画業務は現在、熟練担当者の経験で運用しておりますが、膨大な組み合わせを考慮して策定するため、非常に多くの時間を要しており、ノウハウの共有や更なるリソースの有効活用が困難でした。

そこで、JALEC とグリッドは 2025 年度より一部空港において、実証実験を行い、グリッドの最適化技術と、JALEC が有する配員計画のノウハウとを融合することで、機種資格、運航ダイヤ、勤務制約などを踏まえた最適な配員計画を自動で策定できる機能が有用であることを確認しました。本開発では、業務負荷の軽減や属人化の解消を目指して、年次・月次・日次の各時間軸を一貫して支援するシステムを構築し、航空整備におけるオペレーション全体の高度化を推進してまいります。

【期待される効果】

本システムの導入により、膨大な候補の中から最適な配員計画案を短時間で算出できるようになります。これにより、ダイヤ変更や勤務変動時における再計画の迅速化が見込まれ、担当者はより付加価値の高い業務判断や例外対応に注力することができます。さらに、組織横断的なデータ活用が期待され、限られた整備リソースを最大限に活かし、運航品質の向上などにつながります。

今後は、2027 年夏頃の本番稼働を目指し、稼働後も継続的な機能拡張・高度化を進めることで、航空整備領域における DX の加速と、持続可能な航空インフラの発展に貢献してまいります。

株式会社グリッド CTO/技術共創室室長 梅田 龍介

『運航整備配員計画のような複雑な制約を伴う計画業務の高度化は、数理最適化技術が大きく貢献できる領域だと考えています。技術共創室は、産業や企業の境界を越えた「全体最適」をお客様とともにデザインする組織です。JAL エンジニアリング様と本システムの開発を確実に成功させ、そこで培う知見と技術を JAL グループ、さらには航空業界全体へと広げ、業界の持続的な発展に貢献してまいります。』

以上

【イメージ図】

